

MultiWriter 4M370 / MultiWriter 4M350

安全にご利用いただくために

- 本機を使用する前に必ずこのマニュアルをお読みください。このマニュアルは、読み終わったあとも必ず保管してください。
- このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OSのバージョンによって異なることがあります。
- 商標については、「ユーザーズガイド」(公式サイト)を参照してください。



D03CFU001-00

607E 07640 / FD1383J9-1

1版

2025年4月

日本電気株式会社

プリンターを安全にご利用いただくために、このマニュアルの指示に従って操作してください。このマニュアルには製品のどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、製品内で危険が想定される場所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。

お買い上げいただいた製品は、厳しい安全基準、環境基準に則って試験され、合格した商品です。常に安全な状態でお使いいただけるよう、下記の注意事項に従ってください。

⚠ 警告

新機能の追加や外部機器との接続など、許可なく改造を加えた場合は、保証の対象とならない場合がありますのでご注意ください。詳しくは、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口へお問い合わせください。

安全にかかわる表示

各警告図記号は次のような意味を表しています。

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡、または重傷を負う可能性があり、かつその切迫の度合いが高いと思われる事項があることを示しています。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡、または重傷を負う可能性があると思われる事項があることを示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負うことが想定される内容、および物的損害の発生が想定される事項があることを示しています。

△: 記号は、製品を取り扱う際に注意すべき事項があることを示しています。
指示内容をよく読み、製品を安全にご利用ください。

 注意	 静電気破損注意	 発火注意	 破裂注意	 感電注意
 高温注意	 回転物注意	 指挟み注意	 指挟み注意	 火災注意
 回転部注意	 回転部注意	 鋭利部注意	 鋭利部注意	

⓪: 記号は、行ってはならない禁止事項があることを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。



禁止



火気禁止



接触禁止



風呂等での使用禁止



分解禁止



水ぬれ禁止



ぬれ手禁止



スプレー使用禁止



有機溶剤/液体使用禁止

●: 記号は、必ず行っていただきたい指示事項があることを示しています。指示内容をよく読み、必ず実施してください。



指示



電源プラグを抜け アース線を接続せよ



安全上のご注意

ここで示す注意事項はプリンターを安全にお使いになる上で特に重要なものです。この注意事項の内容をよく読んで、ご理解いただき、プリンターをより安全にご活用ください。記号の説明については「安全にかかわる表示」を参照してください。

電源およびアース接続時の注意

⚠ 警告



電源コードのアース線を取り付ける

万一、漏電した場合の感電や火災事故を防ぐために、アース線を必ず次のいずれかに取り付けてください。

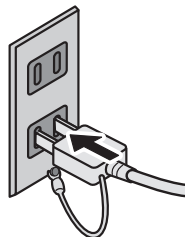
- ・電源コンセントのアース線
- ・銅片などを850mm以上の地中に埋めたもの
- ・接地工事（D種）を行っている接地端子

アース線の取り付けは、必ず電源プラグを電源コンセントに差し込む前に行ってください。

また、設置接続（アース線）を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

ご使用になる電源コンセントのアース線をご確認ください。アースが取れない場所や、アースが施されていない場合は、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口にお問い合わせください。

ただし次のようなところには絶対にアース線を接続しないでください。



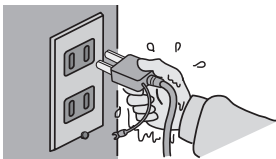
- ・ ガス管（引火や爆発の危険があります）
- ・ 電話専用アース線および避雷針（落雷時に大量の電流が流れる場合があります。）
- ・ 水道管や蛇口（配管の途中がプラスチックになっている場合はアースの役目を果たしません。）



ぬれた手で電源プラグを触らない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。

感電の原因となります。

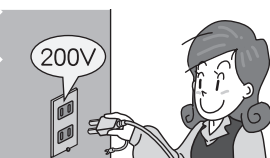


100V以外のコンセントに差し込まない

電源は指定された電圧、電流の壁付きコンセントをお使いください。指定外の電源を使うと火災や漏電の原因となります。

プリンターの定格電圧値および定格電流値より容量の大きい電源コンセントに接続して使用してください。

プリンターの定格電圧値および定格電流値は、プリンター背面パネルの定格銘板ラベルを確認してください。



⚠ 注意



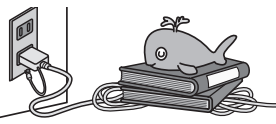
専用電源コード以外は使わない

プリンターに添付されている電源コード以外のコードを使わないでください。電源コードに定格以上の電流が流れると火災の原因となります。



電源コードは曲げたりねじったりしない

電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、束ねたり、ものを載せたり、はさみ込んだりしないでください。またステープルなどで固定することも避けてください。コードが破損し、火災や感電の原因となります。



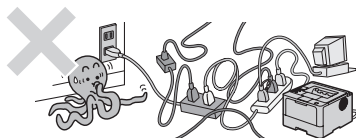
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



延長コードを使わない

添付のコードのみでは届かないところには設置しないでください。コンセントに定格以上の電流が流れると、コンセントが過熱して火災の原因となります。

電源接続に関してご不明な点がある場合は、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口にご相談ください。



添付の電源コードを他の装置や用途に使わない

添付の電源コードは本装置に接続し、使用することを目的として設計され、その安全性が確認されているものです。決して他の装置や用途に使用しないでください。火災や感電の原因となります。



清掃を行う場合は電源プラグを抜く

プリンターの清掃を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずにプリンターの清掃を行うと、感電の原因となります。



電源コードを抜くときはコードを引っ張らない

電源プラグを抜くときはプラグ部分を持って行ってください。コード部分を引っ張るとコードが破損し火災や感電の原因となります。



本製品の電源を完全に切るためにはコンセントから電源プラグを抜かなければいけません。

緊急時に容易にプラグを抜くことができるように本製品はコンセントの近くに設置してください。

設置時の注意

⚠ 警告



電源コードを踏まない場所に設置する

プリンターは、電源コードの上を人が踏んで歩いたり足で引っ掛けたりするような場所には設置しないでください。発熱による火災や感電の原因となります。



発熱器具に近い場所には設置しない

以下のような場所にはプリンターを設置しないでください。

- ・ 発熱器具に近い場所
- ・ 揮発性可燃物やカーテンなどの燃えやすいものの近く
- ・ 高温、多湿の場所や換気が悪くホコリの多い場所
- ・ 調理台や加湿器のそばなど

⚠ 注意



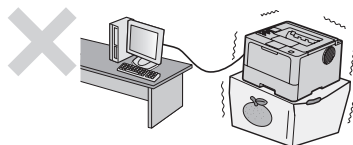
直射日光が当たる場所には置かない

プリンターを窓ぎわなどの直射日光が当たる場所には置かないでください。そのままにすると内部の温度が上がり、プリンターが異常動作したり、火災の原因となります。



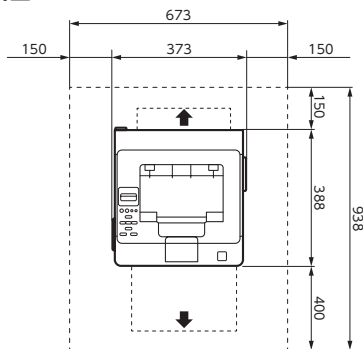
不安定な場所に置かない

プリンターを不安定な場所には置かないでください。プリンターが破損するおそれがあるばかりではなく、思わぬけがや周囲の破損の原因となります。



設置時は周囲のスペースを確保し通気口はふさがらない

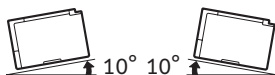
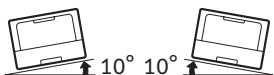
プリンターには通気口があります。プリンターの通気口をふさがらないでください。通気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。プリンターを安全に正しく使用し、プリンターの性能を維持するために、右図の設置スペースを確保してください。また、プリンターの異常状態によっては、電源プラグをコンセントから抜いていただくことがありますので、設置スペース内に物を置かないでください。



単位:mm



プリンターを傾けない



プリンターを10度以上に傾けないでください。
転倒などによるケガの原因となります。

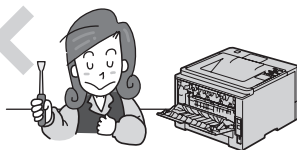
機械使用上の注意

⚠ 警告



分解・修理・改造しない

マニュアルに記載されている場合を除き、分解したり、修理/改造を行ったりしないでください。プリンターが正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の原因となります。



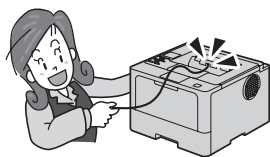
プリンター内に異物を入れない

プリンターの隙間や通気口に物を入れないでください。また、以下のものは、プリンターの上に置かないでください。



- 花瓶やコーヒーカップなどの液体の入ったもの
- クリップやホチキスの針などの金属類
- 重いもの

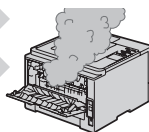
液体がこぼれたり、金属類が隙間から入り込むとプリンター内部がショートし、火災や感電の原因となります。





煙や異臭、異音がしたら電源OFF

次のようなときにはただちに使用を中止し、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口にご連絡ください。そのまま使用を続けると、感電や火災の原因となります。



- ・プリンターから発煙したり、プリンターの外側に異常に熱くなったとき
- ・異常な音やにおいがするとき
- ・電源コードが傷ついたり、破損したとき
- ・ブレーカーやヒューズなど部屋の安全装置が働いたとき
- ・プリンターの内部に水が入ったとき
- ・プリンターが水をかぶったとき
- ・プリンターの部品に損傷があったとき



電気を通しやすい紙は使用しない

電気を通しやすい紙（折り紙/カーボン紙/導電性コーティングを施された紙など）を使用しないでください。ショートして火災の原因となります。



スプレータイプのクリーナーは使用しない

プリンターの性能の劣化を防ぎ安全を確保するため、清掃には指定されたものをご使用ください。スプレータイプのクリーナーは、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。



レーザーについて

注意：取扱説明書に書かれていること以外の、カバーを外すなどの操作はしないでください。レーザーの被爆の原因となります。失明、やけどなどの原因となります。

この機械は、レーザーの国際規格IEC60825（Class 1 レーザー機器）に適合しています。このことはレーザー被爆の危険がないことを意味しています。レーザーは機械内部で放射されますが、部品内部の漏洩防止筐体やカバーなどによって内部に閉じ込められています。したがって、お客様のご使用中にレーザーに被爆することはありません。



プリンターのマニュアルに指定されていない手順や調整を行うと、危険な放射線にさらされる可能性があります。

この製品はEN60825-1:2014/A11:2021 及びEN50689:2021の規格で定義されている消費者向けクラス 1 レーザー製品です。

この製品には、レーザーユニット内に目に見えないレーザー光を放射するクラス 3B レーザーダイオードが搭載されています。

レーザーユニットはいかなる状況でも開けてはなりません。

内部レーザー放射

波長: 775 - 800 nm

出力: 最大 25mW

レーザークラス: レーザークラス3B



壊れた液晶ディスプレイには触らない

壊れた液晶ディスプレイには触らないでください。操作パネルの液晶ディスプレイ内には人体に有害な液体があります。万一、壊れた液晶ディスプレイから流れ出た液体が口に入った場合は、すぐにうがいをして、医師に相談してください。また、皮膚に付着したり目に入った場合は、すぐに流水で15分以上洗浄して、医師に相談してください。



雷が鳴り出したらプリンターに触らない

火災・感電の原因となります。雷が発生しそうときは電源プラグをコンセントから抜いてください。また雷が鳴りだしたらケーブル類も含めて装置には触らないでください。

落雷などが原因で瞬間的に電圧が低下することがありますが、この対策として交流無停電電源装置などを使用することをお勧めします。



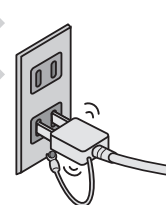
電源コードに薬品類をかけない

電源コードに殺虫剤などの薬品類をかけないでください。コードの被覆が劣化し、感電や火災の原因となります。



電源プラグを中途半端に差し込まない

電源プラグはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込んだまま、ほこりがたまりと接触不良の発熱による火災の原因となります。また、プラグ部分は時々拭いて、乾いた布でほこりやゴミをよくふき取ってください。ほこりがたまったまま、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となります。



⚠ 注意



破損した電源コードは使わない

電源コードが破損した場合は、ビニールテープなどで補修して使用しないでください。補修した部分が過熱し、火災や感電の原因となります。損傷したときは、すぐに同じ電源コードに取り替えてください。



インターロックスイッチを無効にしない

プリンターのインターロックスイッチを無効にしないでください。プリンターのインターロックスイッチに磁気を帯びたマグネット類を近づけないでください。プリンターが作動状態になる場合があり、ケガや感電の原因となります。



プリンター内部の詰まった用紙は無理に取り除かない

プリンター内部に詰まった用紙や紙片は無理に取り除かないでください。特に、定着部やローラー部に用紙が巻き付いているときは無理に取らないでください。ケガややけどの原因となります。ただちに電源スイッチを切り、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口にご連絡ください。



高温注意

プリンターのカバーを開けて作業する場合は、十分に冷めてから行ってください。プリンターの内部には使用中に高温になる定着ユニットという部分があり、触ると火傷の原因となります。



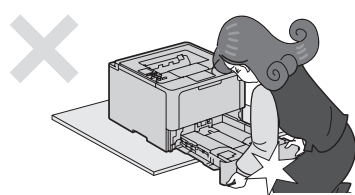
巻き込み注意

プリンターの動作中は用紙挿入口、排出口に手や髪の毛を近づけないでください。髪の毛を巻き込まれたり、指をはさまれたりしてけがの原因となります。



用紙カセットを勢いよく引き出さない

用紙カセットを引き出すときは、ゆっくり引き出してください。用紙カセットを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりけがの原因となります。





換気や通風を十分行う

換気の悪い部屋で長時間使用したり、大量にプリントすると、オゾンなどの臭気により、快適なオフィス環境が保てない原因となります。換気や通風を十分行うように心がけてください。



消耗品取り扱い上の注意

⚠ 警告



消耗品は正しく保管する

消耗品は、箱やボトルにある説明に従って保管してください。



掃除機でトナーを吸い取らない

床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発の原因になります。大量にこぼれた場合、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口にご連絡ください。



トナーカートリッジやドラムカートリッジを火の中に投げ入れない

トナーカートリッジやドラムカートリッジは、絶対に火中に投げ入れないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷の原因になります。使い終わった不要なトナーカートリッジやドラムカートリッジは、必ずお買い求めの販売店またはEPカートリッジ回収センターにお渡しください。弊社にて処理いたします。

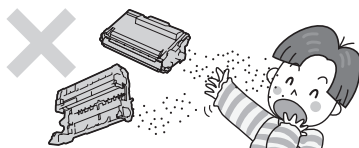


⚠ 注意



トナーカートリッジやドラムカートリッジは、幼児の手が届かない場所に保管する

トナーカートリッジやドラムカートリッジは幼児の手が届かないところに保管してください。幼児がトナーを飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談し指示を受けてください。



トナーに触れたり、吸引したり、目や口に入れない

トナーカートリッジやドラムカートリッジを交換する際は、トナーが飛散しないように注意してください。また、トナーが飛散した場合は、トナーが皮膚や衣服に付いたり、トナーを吸引したり、または目や口に入らないように注意してください。



トナーが皮膚や衣服についたり、万一、目や口に入ったら応急処置

次の事項に従って、応急処置をしてください。

- ・トナーが皮膚や衣服に付着した場合は、石けんを使って水でよく洗い流してください。
- ・トナーが目に入った場合は、目に痛みがなくなるまで15分以上多量の水でよく洗い、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- ・トナーを吸引した場合は、新鮮な空気のところへ移動し、多量の水でよくうがいをしてください。
- ・トナーを飲み込んだ場合は、飲み込んだトナーを吐き出し、水でよく口の中をすすぎ、多量の水を飲んでください。すみやかに医師に相談し指示を受けてください。

規制について

⚠ 警告



- ・本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
また、本機は、日本国内でのみ使用できます。
- ・本機は工事設計認証を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本機を分解/改造すること
 - 本機の裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと

- 本機の無線チャンネルは、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
- 産業・化学・医療用機器
- 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
 - ①構内無線局（免許を要する無線局）
 - ②特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

次のような機器や無線局の近くでは使用しないでください。

- ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等
- 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
- 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

本機の無線チャンネルは上記の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。そのため、電波の干渉が発生し、通信ができなくなったり、通信速度が遅くなったりするおそれがあります。

- 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、ただちに使用周波数を変更する、または電波の発射を中止したうえ、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口にお問い合わせください。
- その他、本機から電波干渉の事例が発生した場合など、お困りのときは、お買い求めの販売店またはMultiWriterサポート窓口にお問い合わせください。



航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、本機の設置および使用は許されません。

電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。

また、航空機内などの使用を禁止されている場所で本機を使用した場合、令により罰せられる場合があります。



医療機関の屋内では次のことを守って使用してください。

- 手術室、集中治療室（ICU）、冠動脈疾患監視病室（CCU）には本機を持ち込まないでください。
- 病棟内では、本機を使用しないでください。
- ロビーなどであっても、付近に医用電気機器がある場合は、本機を使用しないでください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。

埋込み型心臓ペースメーカー、および埋込み型除細動器以外の医用電気機器を本機の近傍で使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。

電波により医用電気機器などの動作に影響を与える場合があります。

⚠ 注意



受信障害について

ラジオの雑音、テレビなどの画面に発生するチラツキ、ゆがみが本機による影響と考えられる場合、本機の電源を切ってください。

電源を切ることにより、ラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、次の方法を組み合わせて、障害を防止してください。

- 本機とラジオやテレビ双方の位置や向きを変える
- 本機とラジオやテレビ双方の距離を離す
- 本機とラジオやテレビ双方の電源を別系統のものに変える
- 受信アンテナやアンテナ線の配置を変える（アンテナが屋外にある場合は、電気店にご相談ください）
- ラジオやテレビのアンテナ線を同軸ケーブルに変える



EMI基準への適合を維持するため、本機にはかならずシールドタイプのケーブルを使用してください。



本ラベル付近にある露出したコネクタには触れない

本ラベル付近にある露出したコネクタには触れないでください。静電気の放電などで故障するおそれがあります。

静電気放電 (ESD) による損傷を防ぐため、内部電子部品の操作を行う前に、お客様の身体から静電気を放出してください。金属製の接地された物体（パネルの塗装されていない金属面など）に触れることにより、静電気は放出されます。

電磁波障害対策自主規制について

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

高調波自主規制について

本機器はJIS C 61000-3-2(高調波電流発生限度値)に適合しています。

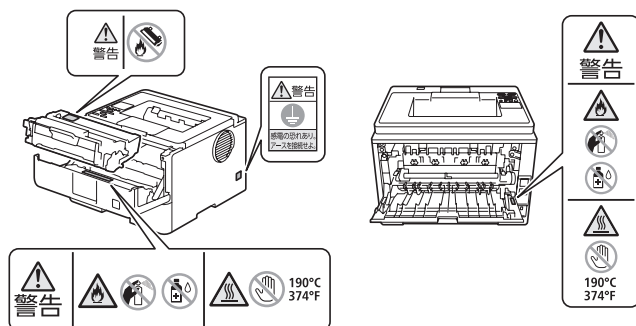
通信回線について

本製品のネットワークポートは電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダー等）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続しないでください。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルーターなどの機器を経由して接続してください。

警告および注意ラベルの貼り付け位置



本機に貼ってあるラベルの警告や説明には必ず従ってください。
特に「高温注意」「高圧注意」のラベルが貼ってある箇所には、絶対に触れないでください。やけどや感電の原因となるおそれがあります。



SDS(安全データシート)の提供について

「労働安全衛生法」及び「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法)に基づき、本機用消耗品のSDSを以下の弊社公式サイトに掲載しております。

<https://jpn.nec.com/prINTER/laser/support/ecology/msds/index.html>

環境について

- サポートについて
弊社は、本製品の消耗品および機械の補修用性能部品（機械の機能を維持するために必要な部品）を機械本体の製造終了後7年間保有しています。
- 粉塵、オゾン、ベンゼン、スチレン、総揮発性有機化合物（TVOC）の放散については、エコマーク複写機・プリンターなどの画像機器の物質エミッションの放散に関する認定基準を満たしています。試験方法はドイツ環境ラベルのBlue Angelに基づき試験を実施しました。
- 回収したトナーカートリッジまたはドラムカートリッジは、環境保護・資源有効活用のため、部品の再使用、材料としてのリサイクル、熱回収などの再資源化を行っています。
- 不要となったトナーカートリッジまたはドラムカートリッジは適切な処理が必要です。トナーカートリッジまたはドラムカートリッジは、無理に開けたりせず、必ずお買い求めの販売店またはEPカートリッジ回収センターにお渡しください。

電波の種類と干渉距離について

2.4 DS/OF4

[2.4] : 2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す。

[DS] : 変調方式がDS-SS 方式であることを表す。(IEEE802.11b のとき)

[OF] : 変調方式がOFDM 方式であることを表す。(IEEE802.11g/n のとき)

[4] : 想定される干渉距離が40 m 以下であることを表す。

[---] : 全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

IEEE802.11a / n

J52	W52	W53	W56
----------------	-----	-----	-----

W52、W53は屋内使用限定

[IEEE802.11a/n] : 本製品が準拠する 5GHz 帯の無線規格を表す。

[J52] : 34/38/42/46ch(5170-5230MHz) のチャンネル (周波数) が使用不可であることを表す。

[W52] : 36/40/44/48ch(5180-5240MHz) のチャンネル (周波数) が使用可能であることを表す。

[W53] : 52/56/60/64ch(5260-5320MHz) のチャンネル (周波数) が使用可能であることを表す。

[W56] : 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch(5500-5720MHz)が使用可能であることを表す。

[W52、W53は屋内使用限定] :

W52、W53 は屋内でのみ使用可能であることを表す。